

防犯 最前線

第23話

ほんごう自主防犯 パトロール会



パトロールに出発するメンバーたち=本郷公民館前で



町内を巡回

見守りの輪 隅々まで

「おはよう。ちよつとはあつたかくなつたね」。寒さが薄らぎ雲一つない休日の朝。本郷公民館に集合したベスト姿のメンバー10人が、いつもどおり二手に分かれて巡回活動に繰り出した。

狭い道が複雑に入り組んだ街並みは変わらず、古い蔵のある家があれば新しい家も並ぶ。住民同士があいさつを交わし、足が不自由な人がいたらごみ袋を運ぶのを手伝う。住民たちにとっては当たり前の日常だが、昔ながらの人付き合いいと、息づく情緒は本郷区ならではの心温まる光景だ。

ほんごう自主防犯パトロール会は、2013年2月に発足した。民家で不審火が発生し、「近所で起きたことも知らないではいけない。みんなで地域を守りたいと思った」と代表の福岡康雄さん(69)は話す。活動は週2回。日進中学校前の旧道を軸に、東南・西南・北東・西北・白山の5地区を巡回し、下校児童も見守る。青パト隊も出動するが、移動はもっぱら歩き。道路の危険箇所や公園の遊具にも目を配り、異常を見逃さない。

登録メンバー19人のうち、毎回半数が参加する。町内約280世帯の住民への安全意識の啓発にと、中でも月1回の広報発行に力を入れている。紙面を組む小塚浩二さん(63)は、「毎回ネタを変え、今すぐできることを4コマ風に取り上げている」と工夫を凝らす。

町内には同会が防犯用に作成したのぼり旗が15カ所に掲げられ、民家の郵便受けには「あいさつ運動展開中」のステッカーも貼られている。巡回中、不審な車両や人を見かけることもあり、小塚修さん(69)は「大事なのは声掛け。『見せる防犯』で不審者を近づけさせないようにしたい」と地域を見守る。

地道な活動は、この日で542回目を数えた。「大きな犯罪もなく、特にポイ捨てや不法投棄が減った」と成果を上げていく。メンバーは高齢者の見守りを視野に、認知症サポートー養成講座や救命講習にも積極的に参加している。福岡さんらは願う。「地域みんなが家族だと思う。絆を強めて地域ぐるみで見守れるとええがなあ」(広)



悪質はがき送付に注意 絶対に電話しないで

「法務省管轄支局」という実在しない機関を装い、訴訟の提起をほのめかすはがきを送りつける架空請求詐欺手口が県内で激増し、市にも相談が寄せられています。

「消費料金に関する訴訟最終告知のお知らせ」と題名が記され、「連絡がない場合は給与や不動産を差し押さえられる」とした不安をあおる文面が並んでいます。「取り下げ最終期日」とともに電話番号が記載されています。身に覚えがないはがきが届いた場合は無視し、絶対に電話しないでください。



はがきの例(一部画像処理)